

段階	主なはたらきかけ	思い・考え	「学んだこと」	子どもの行動	保健体育科で重視する力
出会う	<p>○動きを照らし合わせる 試合の仕方が理解できるように、試合の映像を利用し、ルールを確認した後、繰り返し試合を設定する</p>	3 on 3 では、相手の隙をついてパスを通し、シュートできた	全員で得点ができる喜びが味わえる運動に挑戦してみたい	ティーボールとは、どんなスポーツだろう。試合をやってみよう 1～3時間	★個の動きのよさに気づく力 ・打撃や捕球、送球の技術について気づく
		<p>○記録を残す 攻守における振り返りをするために、個人成績カードを準備する</p>	<p>バットにボールを当てるように練習したい</p> <p>思い切りバットを振り、気持ちよくボールを飛ばしたい</p> <p>ボールも柔らかいので、安心して守備に参加できそうだ</p>	<p>自分にあつた立ち位置やティーの高さで打撃練習をしたい</p> <p>守備の間にボールを狙って打つと、出塁できそうだ</p> <p>捕球したらランナーが進塁するベースに送球しよう</p>	★個の動きのよさに気づく力 ・ボールを打ったり、送球したりするための練習方法を考える
深める	<p>○動きを照らし合わせる 満塁や1、3塁などの状況における攻撃や守備の動きに気づくために意見交流を行う</p>	狙ったところに打てなければ、出塁をすることができない	ボールを打ち分け、出塁する方法を考える 4～12時 (本時12)	<p>相手の守りがうまい場所を狙って打ってみよう</p> <p>出塁できるようになってきたが、なかなか進塁ができない</p> <p>相手が打つボールが飛ぶ方向を予測してシフトをひこう</p>	★集団の動きのよさに気づく力 ・自分たちの試合記録を分析することで、自分たちのチームのよさや足りなさに気づく
		<p>得点をするためには、相手の守備位置や、味方の出塁状況に応じて、味方を進塁させる方法を工夫したい</p>	<p>広角に打撃できると守備にスペースが生まれ、攻めやすいぞ</p> <p>満塁からの試合を行い、チームプレイの練習をしたい</p> <p>遠くに飛ばされたとき中継を入れてホームでアウトを狙う</p>	<p>打線がうまくつながって、たくさん点数がとれると嬉しい</p> <p>状況判断をして打ち分けし進塁率をアップさせたい</p> <p>無駄な失点を減らすために、きちんとカバーリングしよう</p>	★集団の動きのよさに気づく力 ・分析した情報を仲間とともに共有し、ゲームに生かす
つなげる	<p>○動きを照らし合わせる 高めてきたチーム力で狙ったプレイを試すおもしろさを実感するために、学級内でリーグ戦を行う</p>	試合に勝つには、攻撃を工夫することに加えて、失点を減らすために、チームで協力して守備を固めることが大切だ	攻守にわたる一人一人の動きを全員で共有し、リーグ戦に臨む 13～16時	<p>狙った打撃をして、走者をホームに帰還させることができた</p> <p>高まったチームの状況判断力を生かして試合を楽しみたい</p> <p>声をかけあって、全員でアウトをとる方法を共有して守ろう</p>	★人との関係を築く力 ・考えた動きや作戦がうまくいかなかった時のことを考えることで、カバーリングや中継の大切さに気づく
		<p>相手の出方を見て、仲間と協力して動き、それが結果につながるとおもしろい。状況を判断して、かけひきすることに楽しみがある</p>	<p>チームプレイを大切にしながら運動に関わっていく</p>	<p>仲間とつながり協力することで、達成感を得ることができる</p> <p>自分の役割を追究することで、誰でもチームに貢献できる</p>	

日時 平成27年6月16日第2校時
場所 運動場
授業者 馬場 健介

1 単元 みんなを1つにする THE TEEBALL (ボールゲームⅢ・ベースボール型)

2 単元の構想

(1) 本単元で目ざす子どもの姿

ティーボールに出会った子どもは、攻撃や守備を工夫する大切さに気づく。走者の進塁を阻み、失点を減らすための方法を意見交流をすることで、カバーリングや中継プレイの重要性に気づき、一人一人の動きを考え始める。シフトを工夫してひいて守り、全員で協力してゲームをする楽しさを知った子どもは、今後もチームプレイを大切にしながら運動に関わっていく

(2) 本単元で伸ばしたい力

本学級の子どもは、前単元にて3 on 3 を取り組んだ。チームによる攻撃を考える中で、相手の隙をついてパスをつなぐことのよさを知り、集団の動きのよさに気づく力を高めることができた。チームで協力して得点をする楽しさを味わった子どもは、更に仲間と協力して活動したいと考えている。

ベースボール型のティーボールは、打撃と守備のかけひきをする中に楽しさがあり、プレイが止まった状態で攻守の方法を考えることができる。味方を進塁させて得点したり、相手をアウトにして失点を防いだりという動きを考えて練習することで、集団の動きのよさに気づく力を伸ばしたい。さらに、攻撃と守備の精度を高めるために意見交流をすることで、カバーリングや中継の重要性に気づき、仲間と協力してプレイをしようとする中で、人との関係を築く力を伸ばしていきたいと考えている。

(3) はたらきかけと「学んだこと」を行動につなげる子どもの姿

出会う段階では、ティーボールの試合の映像を視聴し、ルールを確認した後、繰り返し試合を行う。子どもたちは、狙ったところに打つことの大切さに気づき、出塁するために、ボールを打ち分ける練習を始める。

深める段階では、子どもたちは、ただ出塁するためだけに打撃をするわけではなく、味方の走者を進塁させて得点をとりたいと考えるようになる。また、攻撃に対して進塁打を防ぎ、失点を減らしたいと考えるようになる。そこで、攻撃側が満塁の状況を設定し、攻撃と守備における動きについて意見交流を行う。その後、満塁の状況から試合を行う中で、3塁走者を本塁に帰還させるために1塁線にゴロを打つことや、守備の間をぬける強い打球を打つことの大切さに気づく。守備においても、打者の特徴をとらえて守備位置を前後させたり、左右に寄せたりすることなどの有効性に気づき、チーム練習で進塁打を狙った打ち分けや、相手に応じた守備シフトの確認をする。さらに、繰り返し試合を行う中で、勝つためには送球や捕球のミスをなくすことや、ミスしたときの時のカバーリングが重要であることに気づき、失点を減らす練習を行う。毎試合の始めにグループでの作戦タイムを設け、カバーリングや中継プレイの動きを考える中で、チーム全員で守備をすることの大切さに気づき、相手の打者に対する守備位置やカバーリングの役割を分担して、練習や試合を行う。

つなげる段階では、高まったチーム力に自信をもち、作戦を立てて試合をする楽しさを実感し始める。そこでリーグ戦を行う。守備側が、長打を狙ってひいてきたら、軽いゴロを打って出塁したり、打者の特徴をとらえて守備位置を寄せて守ったりする中で、チームで協力して狙ったプレイを実行し、かけひきの楽しさに気づく。仲間と協力して試合を行い、勝負のかけひきのおもしろさを知った子どもは、今後もチームプレイを大切にしながら運動に関わっていく。

～ルール表～

II みんなの心が1つになる THE TEEBALL「ティーボール」

ティーボールの基本的なルールについて、理解しましょう。

○人数のルール

- ・1チームの人数は、6～7人で行います。

○打者のルール

- ・空振りしたり、ティーだけを打ったりした場合は、やり直しをします。

(ボールとティーを同時に打った場合は、フェアとします。三振はありません)

- ・バントはありません。

○走塁のルール

- ・打者がボールを打つまでは、塁をはなれてはいけません。
- ・スライディングは禁止。違反するとアウトになります。
- ・塁の駆け抜けは認められます。
- ・仲間がヒットを打った際、ランナーは進塁義務があります。ただし、守備の選手がボールをダイレクトに捕球した際は、帰塁しなくてはなりません。

○守備のルール

- ・外野への飛球は、ワンバウンドで捕球してもアウトとする。

○攻守交代のルール

- ・攻撃側の全員が一巡したときに行います。(残塁者は、次回に引き継ぎ)
- ・野球やソフトボールのベースよりも大きいゾーンを特製ベースとする。

4 本時の構想 (12/16)

ティーボールに出会った子どもは、相手の守備位置や味方の出塁状況に応じて、味方を進塁させるための打撃方法について考え、練習を始めた。また、満塁の状況を設定してゲームを行い、攻撃や守備の仕方について考え、効率よく点数を取ることや失点を減らす方法に気づいた。その成果もあり、打ち分けをして出塁や進塁をすることができるようになってきた。ただ、打ち分けすることができるようになり、その打球を正確に捕球や送球をしてアウトをとることができていないことや、打者に応じたシフトが徹底できていないことに、子どもは課題意識を強くもつようになってきている。

本時では、前時に引き続き、同じ対戦相手と試合を行う。前時の試合内容を振り返り、守備のシフトについて課題意識をもっている橙3MKの授業日記を紹介する。その後、守備におけるファインプレーを集めた映像を利用し、全体で意見交流を行う。打者や走者に応じてシフトを変化させたり、カバーリングをしたりすることの大切さに気づき、作戦を練り直し、ポジショニングの確認をするだろう。その中で、橙1JKや緑1ISを中心に、シフトを意識しながら練習を始める。そして、新たな作戦で試合に臨むことで、相手の攻撃をおさえるための作戦や役割分担の重要性に気づき、さらに勝つための作戦や役割分担を考える。

